

未来授業で中学生に楽しく自衛隊を紹介

自衛隊静岡地方協力本部袋井地域事務所（所長・菊池雅也1等空尉）は9月13日（水）、袋井市立周南中学校で行われた未来授業に参加した。これは一般社団法人未来学校が主催したもので、さまざまな職業に就いている大人が、子供たちに働くことの楽しさや生きがいなどを伝え、将来の夢や可能性を広げることを目的に行われている。

当日は、飲食業や製造業、スポーツインストラクターなど多彩な業種から200人の講師が参加し、袋井所からは広報官の菊池貴文2等陸曹が陸上自衛官として、15人の生徒を対象に約50分間の授業を行った。

授業の最初には、生徒たちが事前に作成した名刺を講師と交換した。名刺の裏にはそれぞれが所属する部活動や将来の夢などが記載されており、菊池2曹はそれを見ながら一人一人に質問をして生徒たちの緊張をほぐした。次に、パソコンを使用して陸・海・空自衛隊の任務や職種、装備品や女性自衛官が活躍する姿などを紹介するとともに、自身の陸上自衛官としての経験や自分の言葉で丁寧に伝えた。また、授業の途中で自衛隊クイズを出題するなど、自衛隊を楽しく知ってもらえる工夫をこらし、生徒たちの笑顔を引き出した。

生徒からは「自衛隊にはたくさんの職種があることを初めて知り、イメージが変わった」「人のためになる職業に就きたい」などの感想を聞くことができた。授業終了後には他講師との意見交換の場も設けられた。

袋井所は、今後も学校等と積極的に交流し、自衛隊に対する認識と理解の向上に努め、若者が描く将来の夢にさまざまな可能性を示していく。



親子を対象に防災イベント 子どもたちが担架を体験



広報コーナー



担架体験

自衛隊静岡地方協力本部富士地域事務所（所長・大石雄一2等陸尉）は9月17日（日）、富士市にある富士山こどもの国で開催された「2023防災フェスタ」に参加した。これは同施設が主催したもので、幼児・小学生等とその保護者が、地震や火事など身近で起こりうる災害を学ぶ体験イベント。

会場には自衛隊ブースのほか、消防車・救急車の展示、火災発生時の避難方法などを体験できる煙体験、水消火器を使った消火体験などが開かれ、県内外から多くの家族連れが訪れた。

富士所は、子どもたちに興味を持ってもらえるよう子供用迷彩服試着コーナーを設置したほか、災害時に被災者を捜索・救助するために使用するチェンソーや油圧式カッターなどの「人命捜索・救助セット」、災害派遣等で隊員の食事となる「非常用糧食」を展示するとともに、写真パネルを使って自衛隊の災害派遣活動を紹介した。

また、同施設の研修室では依頼を受けた大石所長が「災害から命を守る」をテーマに、幼児から小学校低学年の親子を対象に講話を行った。

災害から命を守るための準備や災害時に取るべき行動について紹介した後、「命を守る簡単〇×クイズ」を行い、楽しみながら事前準備の大切さや慌てず行動するための意識づけを図った。

講話の最後には、物干し竿と毛布を使った応急担架の作り方や、ロープを使って人を背負って運ぶ方法を隊員が披露し、子どもたちも作成した担架で負傷者に見立てた人形を運ぶ体験を行った。

富士所は、今後も地域のイベント等に参加し、市民の防災意識向上に貢献していく。

5108（御殿場）産業フェアで広報活動

自衛隊静岡地方協力本部沼津地域事務所（所長・早川勉1等陸尉）は10月8日（日）と9日（月）、御殿場市民会館で開催された「5108産業フェア」において広報活動を実施した。

これは、令和5年10月8日を語呂合わせで「ごてんぼの日」と定め、市内各所でショーやイベントが行われたもの。沼津所は第34普通科連隊（板妻駐屯地）の協力を得て、車両展示と自衛隊広報ブースを開設した。

当日は多くの来場者が訪れ、間近で見られる自衛隊車両に興味を抱いたり、隊員と一緒に写真を撮ったりして楽しんでいた。

広報ブースでは、自衛隊の航空機や艦艇、車両などから好きなものを選んでオリジナルの缶バッジを作成できるコーナーが人気を集めたほか、VR体験コーナーでブルーインパルスの飛行やパラシュート降下の疑似体験をした子どもたちは「本物みたいでわくわくした」「ドキドキして楽しかった」と笑顔を見せた。

また、自衛隊の装備品や活動などを紹介する写真パネルは子どもだけでなく大人の関心も高く、家族全員で自衛隊への理解を深めていた。

沼津所は、今後も自衛隊の活動や装備品に興味を持ってもらえるよう、広報活動を継続していく。

